

JR総連は、第46回中央委員会を1月26日に開催する。しかしながら、前年より伝えてきたJR東海労・JRサービック労働組合（以下、JS労と記載）に関する見解等は、未だJR総連のHP上では公開されていない。その一方、「JR東海労ニュース No. 2809」では、JR総連の山口委員長とJR東海労の淵上委員長、JS労の柳楽委員長の3名が握手する写真もあり、和やかなムードに見える。かと思えば、JR東海労新幹線関西地方本部のHPで公開された文書を読めば、明らかにJR総連はJR東海労と、とりわけ新幹線関西地方本部と対立関係に陥っている。

こうしたJR総連の“情報隠し”が予想されるからこそJR連合へ内部告発の文書が届いたとも言えよう。JR総連とすれば、内部対立を知られたくないからこそ沈黙しているのだろうが、来る中央委員会で事態収拾に向けた統制処分等の制裁措置が求められるのは必至だ。

一連の騒動に表向き沈黙を貫くJR総連

中央委員会でJR東海労を制裁できるか…!?

このJS労を巡る騒動は、時期によって関係者の物言いに変化もあり、その点でも分かりにくい。そこで、今ある情報からこの間に起きた事象を時系列的に整理してみよう。

日付	関係事象	詳細内容
08月18日	JRサービック労働組合結成	JR東海労新幹線関西地方本部役員・組合員の4名がJS労を結成
09月08日	JR総連がJS労に係る緊急声明を发出	「組織内組織の組合結成を認めない緊急声明」を发出。後にJR総連は、当該文書は検討中の内部文書であったと主張
09月10日	山口委員長がJR東海労の集会でJS労を批判	「JR東海労の未来を切り拓く9.10集会」で山口委員長は「新労組の結成については認める立場に至っていない」と発言。
09月13日	JR総連がJS労に係る見解を发出	「新組合結成に関するJR総連見解」を发出。JS労が認めている“二重加盟”は統制処分対象などと記載。
11月26日	近畿地協第35回定期委員会で委員がJR総連を批判	JR東海労新幹線関西地方本部の渡邊副委員長がJR総連批判の発言を行うとともに、その他の役員が9/8付声明等を議場内に配付した。
12月13日	近畿地協における事象を組織破壊行為と確認	JR総連の第7回執行委員会(12/13)において、近畿地協における9月8日付声明等のチラシ配付を「組織破壊行為」と確認。
12月14日	JR東海労第40回臨時大会	JS労の結成等を確認。JR総連は山口氏・熊谷氏・伊藤氏が出席。
12月28日	第40回臨時大会発言集が公開される	JR東海労新幹線関西地方本部HPで「大会発言集」が公開され、山口委員長・淵上委員長、代議員発言で批判の応酬の実態が明らかに。

JR連合が入手したJR総連の9月8日付声明・9月13日付見解、9月10日のJR東海労の集会における山口委員長挨拶からすると、当初、JR総連側もJR東海労中央本部もJS労の結成は認めないスタンスを持っていたと読み取れる。

一方、JS労の承認を行ったJR東海労の第40回臨時大会時点では、山口委員長も淵上委員長も結成に係る問題を複数指摘するも、結成そのものは認めた形に読める。不本意ながらも加盟単組がやろうとしていることを全否定はできない、ということではあるのだろう。

団結の足並みを乱すJR東海労をJR総連・他単組は許すのか?!

とは言え、未だ問題点として残る要素は少なくとも2点ある。まず、JS労は二重加盟が可能であるとPRしているが、JR総連は、早期より二重加盟は統制の対象となり得ると明確に指摘している（JR総連9/13付見解）。次にJR総連は、近畿地協の第35回定期委員会におけるJR東海労新幹線関西地方本部の行為（定期委員会でJR総連9/8付声明等を配付したことを、「組織破壊行為」と12月13日の執行委員会で確認している。

統制処分等の制裁は、大会や中央委員会で行うのが通例だが、1/26の中央委員会でJR総連は、跳ね返りのJR東海労に何らかの制裁を行うのだろうか。もし、何もしないのであれば、産別本部の求心力は地に落ちたも同然となるだろう。加えて、JR北海道労組やJR貨物労組、JR東海労組等の他加盟単組は、団結の足並みを乱すJR東海労を黙って許して良いのか。

JR総連や加盟単組は、戦争抑止や春闘勝利に向けては、労働者・労働組合の団結・連携が重要と説くが、今回、そんなことを望むべくもない、産別内のガバナンス不全を露呈した。もし、そうでないと否定するのならば、論より証拠、中央委員会でどう対処するかにかかっている。